

国土保全へ力結集

斜面防災対策協
技術フォーラム

斜面防災対策技術協会(加藤邦雄会長)は14日、仙台市青葉区の仙台国際ホテルで「若い技術者のために」をテーマとする斜面防災対策技術フォーラム10 in 仙台を開いた。写真。

冒頭、あいさつに立った加藤会長は「最近の異常かつ局地的な豪雨被害は、土砂災害や地すべり、がけ崩れに加えて多くの人的被害をもたらしている。協会員としてさらに技術を研さんし、国土の保全に力を発揮してほしい」と呼び掛けた。

また、来賓として出席した国土交通省の森山裕二砂防部保全課長は「経済・社会を支



えるインフラが大災害の発生で壊滅的な被害を受けなかっためには、事前策が重要になる。若い技術者による新たな防災対策技術の開発・普及に期待したい」と語った。

フォーラムでは、宮城豊彦東北学院大教授が「斜面を見る技術を創る工夫」と題して特別講演した。

技術発表では、▽地すべり発生機構▽地すべり調査・解析▽対策工事・アンカー工▽

動態観測・斜面監視▽排水ボ
ーリング工▽急傾斜調査・工
事——の6テーマあわせて22
編の論文が報告された。

15日には岩手・宮城内陸地
震で被災した荒砥沢ダムと周
辺地域で地すべり・大規模災
害の現場見学会も行われた。